

令和3年度「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	小城市立三日月小学校 児童数744人	担当者名	横尾みゆき 進藤彩 西村晋一
住所	郵便番号 845-0021 佐賀県小城市三日月町長神田 1680	電話番号	(0952) 73-2950

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	読書でつながる三日月っ子 ～友達・家・地域への読書のバトン～
	取組期間	令和3年4月6日 ～ 令和3年11月30日

II.取組後の評価

評価	取組人数	744人	実施日数	130日	読書冊数	80699冊	連携した団体数	2団体
	取組内容(概要)	(1)『本』でつなぐ三日月の絆～友達・家・地域への読書のバトン～の取り組み (2)「一人100冊運動」を中心とした取り組み						
	工夫したこと	今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、図書室にたくさんの児童を呼び込むことが難しい状況が続いた。このような現状の中で、図書室が学校の中でどのような役割を担うことができるかを、4月初めに図書委員と図書館司書、図書館担当教員とで話し合った。考えを出し合う中で、「このような時こそ、読書を通じた人と人とのつながりを大事にしたい」という意見にまとまっていった。そこで今年度は、本について語り合うことを通して、友達や家族や地域の人とのコミュニケーションを深めていくことを目標に、読書の楽しみを図書室から様々な方法を使って発信していくことにした。 (1)『本』でつなぐ三日月の絆～友達・家・地域への読書のバトン～の取り組み ●教職員と児童とのつながり ・新しい担任やクラスメイトとの出会いの季節である4月には、図書委員が30名以上の教職員にインタビューをしてブックレビューを作成した。そして、これを玄関に掲示することで全校児童に各教職員とその人が紹介する本の双方に興味や関心を持たせた。【*1】 ●図書委員と全校児童とのつながり(6月、11月の読書まつりにおいて) ・<コラボ給食とクイズ>給食のメニューに「こまったさんのグラタン」を給食で出してもらい、この絵本の内容から図書委員よりクイズを出した。 ・<おすすめの本クイズ>図書委員が自分たちのお勧めの本から、その内容についてクイズを全校児童に向けて出した。 ・<図書委員プレゼンコンテスト>図書委員全員が4つのチームを作って、各チーム1冊のお勧めの本を決めて、その本の内容や素晴らしさを綴ったプレゼン用紙を玄関前に貼り出した。そして、全校児童に、この中から一番読みたいと思った作品に投票してもらった。【*2】						

	<p>●児童同士のつながり（6月、11月の読書まつりにおいて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〈三日月っ子が選ぶ人気の本総選挙〉全校児童に、今までで読んだ本の中から1番好きな本と、それを選んだ理由を書いてもらい図書室に掲示した。そして、素晴らしい内容を書いている児童を「子どもプレゼンター」に認定した。【*3】 ・〈貼り絵にチャレンジ〉1年から6年までの各教室に貼り絵の用紙を貼り、各クラスの児童が借りた本の冊数分の色紙を持ち帰り、貼り絵の台紙に貼って、クラスみんなまで協力して絵の完成を目指した。【*4】 ・〈しおりコンクール〉図書館まつり期間中、配布したしおりの用紙に、好きな絵を描いてもらって図書館に掲示した。コンクールの後には作品をラミネートして描いた本人にプレゼントした。【*5】 <p>●児童と家族とのつながり（6月、11月の読書まつりにおいて）</p> <p>〈家読（うちどく）をやってみよう〉図書館まつりの期間中に家族と共に、同じ本を読んで、語り合っ楽しんでもらうことを目的に、本の題名、読んだ日、誰と読んだか、読んだ本について家族と話したことを書く枠を設定した「家読カード」を配布した。書いて提出してもらったものを図書室に掲示した。【*6】</p> <p>●地域などと連携した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車図書館「本丸くん」（小城市民図書館三日月館）による貸出〈月1回〉 ・「ムーンブック」（地域の方々の読み聞かせボランティア）による朝の読み聞かせ〈各学期に各クラス1回ずつ。今年度は年間12回〉【*7】 ・佐賀県庁まなび課から配布された『読書ノート（ライブラリー・スタート・パスポート）』の活用。夏休み前に全校児童へ配布し、夏休みの読書を記録。 <p>（2）「一人100冊運動」を中心とした取り組み</p> <p>100冊以上の本を借りた児童の貸し出しカードを金色にして、「ゴールドカード」とし、給食の時間に100冊達成した児童の名前を放送して称賛した。また、「読書の星」として、100冊達成した児童の名前を書いた星型の紙を図書室の入口に貼りだした。【*8】</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>「ふだん図書委員をやるなかで気をつけたことは、借りに来た人から話しかけられたり、質問されたときには、親切にやさしく、丁寧に答えるようにしたことです。」「金曜日の当番が担当した『家読』はみんながたくさん感想を書いていたので、掲示の準備をするときもうれしかったです。たいへんだったけど、やりがいがあった楽しかったです。」という図書委員の言葉が、活動後の感想に書いてあった。今年度の全校の貸し出し冊数は、昨年度の11月までと比較して、1万冊以上も増加している。これは図書室が『読書を通しての対話』をテーマに掲げて活動したことで、全校児童に読書意欲を喚起した成果であると思う。【*9】</p>
<p>これまでの取組や今後の取組予定</p>	<p>「スクール読書チャレンジ運動」に毎年応募し、図書委員を中心として、全校がテーマをもって活動することで、本の貸し出し冊数は確実に増加している。今年度は、「読書を通じての人と人とのつながりを大切にしていきたい」という思いで活動を行ったが、この気持ちを大事にして、今後も読書活動を充実させていきたい。</p>

『本でつなぐ三日月の絆～友達・家・地域への読書のバトン～』

●教職員と児童とのつながり

【*1】○先生おすすめの本紹介



新しい担任やクラスメイトとの出会いの季節である4月には、図書委員が30名以上の教職員にインタビューをして、ブックレビューを作成して、児童玄関前に掲示した。

●図書委員と全校児童とのつながり

○図書委員おすすめの本紹介

図書委員のおすすめの本を、顔写真をつけて図書室に掲示することで、図書室や図書委員への関心を高めた。掲示物を見て、「この6年生がおすすめしている本を借りよう!」「この本わたしも好き!」という姿が図書室の中で見られた。



【*2】○図書委員プレゼンコンテスト

図書委員が4つのチームに分かれ、各チームおすすめの1冊を決め、本の内容や魅力をまとめたプレゼン用紙を児童玄関前に掲示した。全校児童にこれを見てもらい、最も読みたいと思った本に投票してもらった。



○読み聞かせ動画の作成



コロナ禍ということもあり、図書委員による他学年への読み聞かせなど学年間の交流が難しかった。そこで、おすすめの本を選び、読み聞かせの動画を作成した。低学年では、この動画を見ながら、本の中に出てくるリズムやくり返しのある読み方を、自然と口ずさむ姿が見られた。

●児童どうしのつながり ～6月・11月の読書まつりにおいて～

【*3】○三日月っ子が選ぶ!人気の本総選挙



全校児童に、今まで読んだ本の中で一番好きな本と、それを選んだ理由を書いてもらい図書室に掲示した。学年ごとに集計を行ってみると、様々なジャンルの本に票が分かれていて、児童の読書の幅の広さが窺えた。

また、素晴らしい内容を書いている児童を「子どもプレゼンター」に認定した。

【*4】○貼り絵にチャレンジ



1～6年までの各教室に大きな貼り絵の用紙を掲示して、各クラスの児童が借りた本の冊数の色紙を持ち寄って貼り、クラスみんなで協力して、絵の完成を目指した。

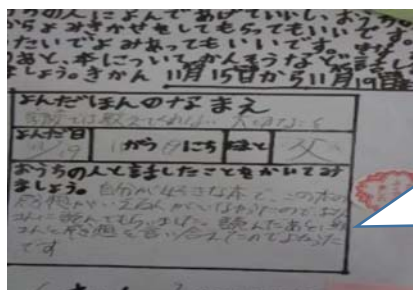
【*5】○しおりコンクール



図書館まつりの期間中に配布した用紙に、好きな絵を描いてもらい図書室に掲示した。コンクールの後には、作品をラミネートして描いた本人にプレゼントした。

●児童と家族とのつながり

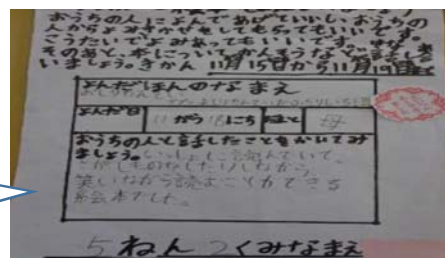
【*6】○家読をやってみよう



自分が好きな本で、この本の感想が言える人がいなかったの、お父さんに読んでもらいました。

本を読んだ後に、お父さんと感想を言い合えたので良かったです。

一緒に読んでいて、探し物をしたりしながら読むことができる絵本でした。



本の題名、読んだ日、誰と読んだか、読んだ本について家族と話し合ったことなどを書く枠を設けた「家読カード」を配布し、図書館まつりの期間中に、家族と一緒に、1冊の本を楽しんでもらった。提出されたカードは図書室に掲示した。

●地域の方と連携した取り組み

【*7】○三日月ムーンブックの読み聞かせ



全校で毎週月曜に行なわれる朝の読書タイムの時間に、全学年にわたって、各学期に1回ずつ、地域の読み聞かせボランティアの方々に、読み聞かせをしていただいた。学年に応じて興味や関心がわく本を、ボランティアの方に選出していただいた。読み聞かせで読まれた本は、図書室入り口のムーンブックコーナーで紹介した。

【*8】○「1人100冊運動」を中心とした取り組み

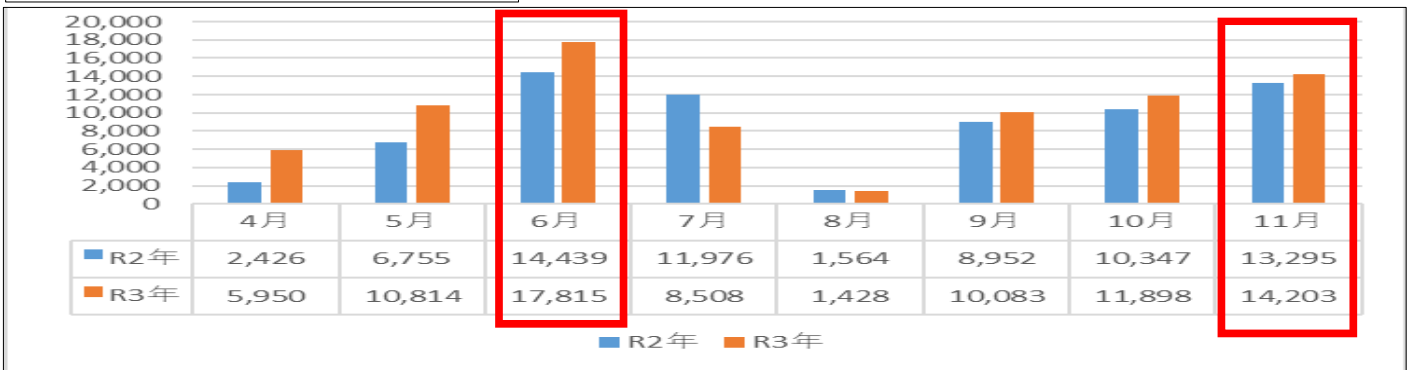
100冊以上の本を借りた児童の貸し出しカードを金色にして「ゴールドカード」とし、給食の時間に100冊達成した児童の名前を放送して称賛した。

また、「読書の星」として、100冊達成した児童の名前を書いた星型の色紙を図書室の入り口に貼り出した。100冊達成するごとに星の色が変わるので、さらに読書を積み重ねる目標となっていた。



【*9】○貸出冊数の比較

R2年とR3年の月別貸出比較票



R2年とR3年の貸出冊数の比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
R2年	2,426	6,755	14,439	11,976	1,564	8,952	10,347	13,295	69,754
R3年	5,950	10,814	17,815	8,508	1,428	10,083	11,898	14,203	80,699

グラフからわかるように、図書館まつりを行なった6月と11月は、読書への関心も一層高まり、貸し出し冊数が増加している。

また、4月から11月までの貸し出し冊数を前年度と比較すると、1万冊以上も増加している。今年度は11月を終えた時点で、平均して一人当たり100冊以上の本読んでいることになる。

これは、図書室が、本を通じてのコミュニケーションを目指して活動してきた成果であると考えます。